



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年2月3日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社イチネンホールディングス

コード番号 9619 URL <https://www.ichinenhd.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 黒田 雅史

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 執行役員 総合企画部長 (氏名) 井本 久子 TEL 06-6309-7890

四半期報告書提出予定日 2023年2月14日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：有（個人投資家向け決算説明会、並びに機関投資家・アナリスト向けWEB会議の開催を予定）

（百万円未満切捨て）

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年12月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	94,992	4.7	7,224	1.4	7,463	3.2	4,707	△2.9
2022年3月期第3四半期	90,735	8.5	7,124	25.1	7,232	26.6	4,850	140.7

（注）包括利益 2023年3月期第3四半期 4,507百万円（△3.7%） 2022年3月期第3四半期 4,679百万円（69.9%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	196.11	195.85
2022年3月期第3四半期	200.92	200.15

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第3四半期	171,493	47,060	27.4	1,955.57
2022年3月期	168,507	43,673	25.9	1,819.55

（参考）自己資本 2023年3月期第3四半期 47,037百万円 2022年3月期 43,574百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	ー	23.00	ー	23.00	46.00
2023年3月期	ー	25.00	ー	ー	ー
2023年3月期（予想）	ー	ー	ー	23.00	48.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	122,000	1.1	7,660	△11.2	7,700	△11.8	4,880	△13.6	203.78

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期3Q	24,262,227株	2022年3月期	24,262,227株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	209,376株	2022年3月期	314,336株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期3Q	24,006,269株	2022年3月期3Q	24,142,740株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2022年4月1日～2022年12月31日)におけるわが国経済は、ウィズコロナの中で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待されておりましたが、世界的な金融引締め等に加え、物価上昇、供給面の制約等の下振れリスク、金融資本市場の変動など依然として先行き不透明な状態が続いております。

このような状況の下、当社グループは「いちねんで、いちばんの毎日を。」をスローガンに掲げ、最高の品質とサービスでより多くのお客様に満足をご提供し、適正な利潤の確保によりステークホルダーに報い、社会に貢献できる企業を目指しております。

基盤事業である自動車リース関連事業を中心に、ケミカル事業、パーキング事業、機械工具販売事業、合成樹脂事業を展開しており、これら既存事業の強化を進めながら、事業領域の枠にとらわれない新規事業への参入、規模拡大を目的とした積極的なM&A、海外展開にも挑戦しております。

当第3四半期連結累計期間の連結売上高は949億92百万円(対前年同期比4.7%増)、営業利益は72億24百万円(対前年同期比1.4%増)、経常利益は74億63百万円(対前年同期比3.2%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は47億7百万円(対前年同期比2.9%減)となりました。

各セグメントの経営成績は、次のとおりであります。なお、下記のセグメント別売上高は、内部売上高消去前の金額であります。

<自動車リース関連事業>

リースにおきましては、リース契約車両は依然として小型化傾向にあります。国内のリース車保有台数は堅調な伸びを維持しており、市場は緩やかながら拡大傾向にあります。当社グループは、地域密着のきめ細やかなサービスで競合他社との差別化を図りながら、比較的競合の少ない地方市場及び中小口規模の企業をメインターゲットとして新規販売を積極的に行うとともに、既存顧客との更なる取引深耕に努めました。

これらの結果、2022年12月末現在リース契約台数は92,783台(対前期末比2,810台増)となり、リース契約高は283億36百万円(対前年同期比5.5%増)、リース未経過契約残高は851億70百万円(対前期末比1.4%増)となりました。

自動車メンテナンス受託におきましては、当社グループ独自の自動車整備工場ネットワークによる高品質なメンテナンスサービスを強みとしながら、更なる契約台数、契約残高の増加に努めた結果、メンテナンス受託契約台数は84,929台(対前期末比1,954台増)となり、メンテナンス受託契約高は46億円(対前年同期比8.9%減)、メンテナンス未経過契約残高は85億19百万円(対前期末比1.2%減)となりました。

燃料販売におきましては、主に自動車用燃料給油カードにおいて、低燃費車の普及により需要が減少傾向にありますが、既存顧客へのサービス向上並びに新規顧客の獲得に注力いたしました。

販売面では、リース並びに自動車メンテナンス受託は契約台数が順調に推移いたしました。また、燃料販売も販売数量が順調に推移いたしました。

損益面では、主力である自動車リースの販売が増加したことに加え、車両処分の販売単価が上昇したことにより利益が増加いたしました。また、燃料販売の仕入価格が安定したことにより利益が増加いたしました。

この結果、売上高は443億15百万円(対前年同期比9.1%増)、セグメント利益は51億96百万円(対前年同期比28.7%増)となりました。

<ケミカル事業>

ケミカル事業におきましては、住みよい地球環境と人々の暮らしの向上に貢献するべく、商品開発力の強化及び品質向上に取り組むとともに、付加価値の高い商品の販売に注力いたしました。

販売面では、化学品関連の機械工具商向けケミカル製品の販売並びに工業薬品関連の燃料添加剤の販売は順調に推移いたしました。一方、工業薬品関連の石炭添加剤の販売並びに一般消費者向けケミカル製品の販売は減少いたしました。

損益面では、急激な円安の進行及び原材料価格の上昇の影響により利益が減少いたしました。

この結果、売上高は88億85百万円(対前年同期比1.5%増)、セグメント利益は8億26百万円(対前年同期比21.0%減)となりました。

<パーキング事業>

パーキング事業におきましては、安全・安心・清潔で利用しやすい駐車場をお客様にご提供するべく、「One Park」のブランド名でコインパーキングや来客用駐車場を全国に展開しているほか、病院や官公庁及び商業施設に附帯する駐車場の運営管理も行っております。中長期的に安定した収益基盤を築くため、更なる駐車場数の拡大に努めた結果、2022年12月末現在駐車場管理件数は1,811件（対前期末比95件増）、管理台数は37,929台（対前期末比779台増）となりました。

販売面では、新規駐車場の開発が順調に進み、また、既存駐車場の継続的な収益改善活動の効果もあり、販売が増加いたしました。また、前連結会計年度に新たに連結子会社となった株式会社オートリが販売増加に寄与いたしました。

損益面では、販売増加の影響により利益が増加したことに加え、前連結会計年度に新たに連結子会社となった株式会社オートリが利益の増加に寄与いたしました。

この結果、売上高は51億65百万円（対前年同期比23.3%増）、セグメント利益は7億57百万円（対前年同期比80.8%増）となりました。

<機械工具販売事業>

機械工具販売事業におきましては、プロ向けや個人向けの各種工具類、自動車部品、産業・建設機械部品など幅広い商材を取り扱っており、自社でインターネット通販も展開しております。更なる事業規模の拡大並びに収益性の向上を実現させるため、取扱アイテムの拡充、自社オリジナル製品の開発・販売の強化、商品調達コスト及び物流コストの低減に努めました。

販売面では、自動車部品及び産業資材並びに産業機械部品等の販売は順調に推移いたしました。

損益面では、急激な円安の進行の影響により利益が減少いたしました。

この結果、売上高は271億58百万円（対前年同期比2.9%増）、セグメント利益は4億18百万円（対前年同期比36.0%減）となりました。

<合成樹脂事業>

合成樹脂事業におきましては、遊技機部品の製造・販売を行う主力の遊技機部品事業を中心に、新規顧客の拡大及び新商品の開発を図り、同時に品質改善にも努めてまいりました。

販売面では、前期に遊技機の新基準機への移行に伴う入替需要が増加したことの反動により、遊技機メーカーへの合成樹脂製品の販売が大幅に減少いたしました。また、科学計測器の販売は前年同期並みに推移いたしました。また、半導体実装装置メーカー等へのセラミックヒーターの販売は減少いたしました。

損益面では、上記要因における販売減少の影響により利益が減少いたしました。

この結果、売上高は87億77百万円（対前年同期比19.1%減）、セグメント利益は74百万円（対前年同期比92.7%減）となりました。

<その他>

その他事業の農業におきましては、経営を軌道に乗せるべく継続して栽培ノウハウの蓄積を進めるとともに、新しい販路の開拓及び6次産業化に向けた検討・研究等、収益化に向けた取り組みを行ってまいりました。

販売面では、農業において、農作物の販売数量が減少いたしました。また、販売単価は上昇いたしました。また、前連結会計年度に新たに連結子会社となった新光硝子工業株式会社及び新生ガラス株式会社が販売増加に寄与いたしました。

損益面では、農業において、高知県南国市に新たに開設した「南国農場」の開設費用等の経費が増加いたしました。また、既存農場における販売単価の上昇等の要因により、前年同期比では損失幅が縮小いたしました。また、前連結会計年度に新たに連結子会社となった新光硝子工業株式会社及び新生ガラス株式会社が利益の増加に寄与いたしました。

この結果、売上高は15億19百万円（前年同期は6億80百万円のセグメント売上高）、セグメント損失は66百万円（前年同期は69百万円のセグメント損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

<資産の状況>

当第3四半期連結会計期間末における流動資産の残高は768億13百万円となり、前連結会計年度末残高718億6百万円と比べて50億7百万円増加いたしました。これは「現金及び預金」の減少17億38百万円、「受取手形及び売掛金」の減少6億72百万円、「電子記録債権」の増加7億53百万円、ファイナンス・リース取引の契約増加による「リース投資資産」の増加18億74百万円、販売計画に基づく在庫確保等による「商品及び製品」の増加16億81百万円、「原材料及び貯蔵品」の増加5億8百万円、自動車税等の納付による「前払費用」の増加5億8百万円、車両販売仕入に係る前渡金の増加等による流動資産「その他」の増加18億36百万円が主な要因であります。

固定資産の残高は946億32百万円となり、前連結会計年度末残高966億38百万円と比べて20億6百万円減少いたしました。これは減価償却費がオペレーティング・リース取引の契約増加を上回ったことによる「賃貸資産」の減少13億78百万円、償却による「のれん」の減少1億85百万円、時価評価等による「投資有価証券」の減少1億83百万円、「繰延税金資産」の減少2億26百万円が主な要因であります。

繰延資産の残高は47百万円となり、前連結会計年度末残高61百万円と比べて14百万円減少いたしました。

以上の結果、資産合計は当第3四半期連結会計期間末残高1,714億93百万円となり、前連結会計年度末残高1,685億7百万円と比べて29億85百万円増加いたしました。

<負債の状況>

当第3四半期連結会計期間末における流動負債の残高は562億96百万円となり、前連結会計年度末残高526億29百万円と比べて36億66百万円増加いたしました。これは「支払手形及び買掛金」の減少8億99百万円、「電子記録債務」の増加7億29百万円、「1年内償還予定の社債」の増加50億円、「1年内返済予定の長期借入金」の増加7億18百万円、「未払法人税等」の減少16億13百万円が主な要因であります。

固定負債の残高は681億36百万円となり、前連結会計年度末残高722億4百万円と比べて40億68百万円減少いたしました。これは「社債」の減少51億30百万円、「長期借入金」の増加10億3百万円が主な要因であります。

以上の結果、負債合計は当第3四半期連結会計期間末残高1,244億32百万円となり、前連結会計年度末残高1,248億34百万円と比べて4億1百万円減少いたしました。

<純資産の状況>

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は470億60百万円となり、前連結会計年度末残高436億73百万円と比べて33億87百万円増加いたしました。これは「親会社株主に帰属する四半期純利益」の計上による「利益剰余金」の増加47億7百万円、配当金の支払による「利益剰余金」の減少11億52百万円、時価評価による「その他有価証券評価差額金」の減少1億10百万円が主な要因であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績につきましては、現時点では、2022年10月31日に公表いたしました業績予想に変更はございません。なお、引き続き今後の業績動向を踏まえ精査しており、修正の必要が生じた場合には速やかにお知らせいたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,038	9,300
受取手形及び売掛金	15,825	15,153
電子記録債権	4,441	5,194
リース・メンテナンス未収入金	2,497	2,618
リース投資資産	21,936	23,811
商品及び製品	8,173	9,854
仕掛品	869	1,005
原材料及び貯蔵品	1,442	1,951
前払費用	2,407	2,915
その他	3,218	5,055
貸倒引当金	△44	△46
流動資産合計	71,806	76,813
固定資産		
有形固定資産		
貸貸資産		
減価償却累計額	△75,494	△79,497
貸貸資産（純額）	60,881	59,503
土地	10,835	10,832
その他	29,126	29,810
減価償却累計額	△14,913	△15,766
その他（純額）	14,212	14,043
有形固定資産合計	85,930	84,380
無形固定資産		
のれん	947	762
その他	445	696
無形固定資産合計	1,392	1,458
投資その他の資産		
投資有価証券	4,690	4,507
長期前払費用	1,685	1,595
繰延税金資産	1,089	863
その他	1,967	1,909
貸倒引当金	△117	△81
投資その他の資産合計	9,316	8,793
固定資産合計	96,638	94,632
繰延資産	61	47
資産合計	168,507	171,493

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	13,542	12,643
電子記録債務	4,488	5,217
短期借入金	4,350	4,300
コマーシャル・ペーパー	3,500	4,000
1年内償還予定の社債	260	5,260
1年内返済予定の長期借入金	20,042	20,761
リース債務	12	9
未払法人税等	2,578	965
リース・メンテナンス前受金	491	494
賞与引当金	944	340
品質保証引当金	9	8
その他	2,409	2,295
流動負債合計	52,629	56,296
固定負債		
社債	16,490	11,360
長期借入金	52,386	53,390
リース債務	7	4
退職給付に係る負債	1,999	2,018
役員退職慰労引当金	220	194
資産除去債務	489	517
その他	610	651
固定負債合計	72,204	68,136
負債合計	124,834	124,432
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,529	2,529
資本剰余金	1,805	1,805
利益剰余金	38,201	41,740
自己株式	△368	△245
株主資本合計	42,166	45,829
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,338	1,228
繰延ヘッジ損益	16	△29
為替換算調整勘定	72	26
退職給付に係る調整累計額	△20	△17
その他の包括利益累計額合計	1,407	1,207
新株予約権	98	23
純資産合計	43,673	47,060
負債純資産合計	168,507	171,493

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	90,735	94,992
売上原価	70,449	73,869
売上総利益	20,286	21,122
販売費及び一般管理費		
役員報酬	767	863
給料手当及び賞与	5,249	5,462
賞与引当金繰入額	288	299
退職給付費用	214	224
役員退職慰労引当金繰入額	22	23
貸倒引当金繰入額	△1	△15
品質保証引当金繰入額	3	△1
のれん償却額	185	185
その他	6,432	6,855
販売費及び一般管理費合計	13,162	13,898
営業利益	7,124	7,224
営業外収益		
受取配当金	77	96
仕入割引	45	42
為替差益	6	105
その他	70	101
営業外収益合計	199	344
営業外費用		
支払利息	46	54
支払手数料	17	16
その他	27	34
営業外費用合計	91	105
経常利益	7,232	7,463
特別利益		
固定資産売却益	2	3
投資有価証券売却益	2	1
負ののれん発生益	259	—
特別利益合計	264	5
特別損失		
固定資産除売却損	55	47
投資有価証券売却損	0	3
投資有価証券評価損	49	47
災害による損失	—	40
特別損失合計	105	138
税金等調整前四半期純利益	7,391	7,329
法人税、住民税及び事業税	2,567	2,334
法人税等調整額	△27	287
法人税等合計	2,540	2,621
四半期純利益	4,850	4,707
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,850	4,707

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	4,850	4,707
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△204	△110
繰延ヘッジ損益	△1	△46
為替換算調整勘定	32	△45
退職給付に係る調整額	1	2
その他の包括利益合計	△171	△200
四半期包括利益	4,679	4,507
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,679	4,507

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注3)
	自動車 リース関連 事業	ケミカル 事業	パーキング 事業	機械工具 販売事業	合成樹脂 事業	計				
売上高										
外部顧客への売上高	40,438	8,292	4,189	26,293	10,842	90,055	680	90,735	—	90,735
セグメント間の内部売上高又は振替高	164	464	—	104	8	741	0	741	△741	—
計	40,602	8,756	4,189	26,397	10,850	90,796	680	91,477	△741	90,735
セグメント利益又は損失(△)	4,036	1,047	419	653	1,020	7,177	△69	7,108	15	7,124

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ガラス加工製品の製造販売、農産物の生産販売、不動産の賃貸及び管理等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注3)
	自動車 リース関連 事業	ケミカル 事業	パーキング 事業	機械工具 販売事業	合成樹脂 事業	計				
売上高										
外部顧客への売上高	44,142	8,413	5,165	26,979	8,772	93,473	1,518	94,992	—	94,992
セグメント間の内部売上高又は振替高	172	472	—	178	5	829	0	830	△830	—
計	44,315	8,885	5,165	27,158	8,777	94,302	1,519	95,822	△830	94,992
セグメント利益又は損失(△)	5,196	826	757	418	74	7,274	△66	7,208	15	7,224

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ガラス加工製品の製造販売、農産物の生産販売、不動産の賃貸及び管理等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。